



シルバー高島

発行/公益社団法人高島市シルバー人材センター 広報部会 滋賀県高島市勝野215 TEL (0740)36-8191 FAX (0740)36-8010

祝 公益社団法人 高島市シルバー人材センター 設立15周年記念フェア



年頭のご挨拶



理事長

川添宏司

新年あけましておめでとございませす。

元号が令和となって初めての新年ですが、皆様お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素は、当センターの事業運営に格別のご理解とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

令和元年は、穏やかで希望の持てる新鮮な気持ちで臨んでいましたが、台風や水害により、東日本方面が甚大な災害に見舞われました。心よりお見舞い申し上げます。

令和元年11月30日には、当センター設立15周年の記念フェアを実施させていただきました。市民の皆様、会員の皆様からも作品展示にご協力いただき盛大に開催することができました。ご協力いただきました皆様に改めて感謝申し上げます。午前中の式典におきましては、当センターに発注いただいている五団体に感謝状を贈呈させていただきました。

さて、令和2年度は役員改選の年であり、既に各地域では新しい役員の出等に取り組んでおられることと思

ますが、目まぐるしく変化する環境のなか、会員の皆様と新体制で臨みたいと考えております。

令和元年度は高島市の「ふるさと納税」の返礼品の中に、当センターの生活支援サービスを加えていただき、商品ではなく「サービスの提供」という新しい取り組みをさせていただき、利用実績を上げることができました。今後も積極的な業務開拓を実施したいと考えています。会員の皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

国は、「生涯現役社会」の実現に向けてシルバー人材センターに期待をよせています。会員の皆様の知識や技能と経験を活かし、地域社会の活性化に貢献する役割を担っています。そのためには私たちと一緒に活躍いただける会員を増やさなければなりません。全国で百万人の会員を目指して各センターが取り組んでいます。センターの事業運営の目的達成のために尚一層会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

就業形態に変化がありますが、受注した仕事は、親切、丁寧、迅速をモットーにし、好感を持たれる言動に心がけ、諸先輩が築いてこられた素晴らしい歴史を背景に、今後なお一層発展させていきたいと思います。

最後に会員の皆様、「自主・自立・共働・共助」の理念の下、健康で楽しく安全に就業できる年でありませう、そして皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。

設立15周年記念式典



挨拶される福井市長

さる11月30日土曜日に藤樹の里文化芸術会館にて公益社団法人高島市シルバー人材センターの設立15周年記念フェアが開催されました。

第1部、設立記念式典が行われ、式典委員長の開会の言葉に始まり、物故者の追悼、理事長による式辞、シルバー人材センターにご協力いただいた団体への感謝状贈呈、福井市長の祝辞続いて、廣本市議会議長の祝辞と、式典は進んでいきました。式典副委員長の誓いのことばの後、副理事長の閉会のことばで第1部式典を終えました。出席会員数は約200名でした。



会員による安来節

第3部は会員、市民の皆様の芸能発表です。トップバッターはコスモス会による大正琴の演奏。続いてマキノ町出身の落語家桂優々の創作落語、他に舞踊、詩吟などがありました。



市民によるフラダンス

お楽しみ抽選会では全員が一喜一憂しました。

また、市民のみなさま、シルバー会員有志による盆栽や絵画、刺繍、工芸品、書や写真、手芸品の展示も行われました。

たくさんの方の市民のみなさまのご来場をいただき、最後は、早藤事務局長の閉会のあいさつでフェアの幕を閉じました。

設立15周年記念フェア

第2部は滋賀県警察本部交通部交通安全画課による寸劇。高齢者の交通安全啓発が主なテーマでした。警察の交通事故防止、特に高齢者の交通事故防止に力を入れていることが見て取れました。また、高齢者をターゲットにした振り込め詐欺にあわないよう注意喚起したり、あとは認知症防止につながる室内で簡単なグループでのゲームなど盛りだくさんの内容でした。

新春のご挨拶



高島市長
福井正明

新年、明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、輝かしい新春を健やかにお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。



川添理事長様をはじめ役員の方々や、500を超える会員の皆様方におかれましては、日ごろより高島市政各般にわたり、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、厚生労働省が公表している都道府県別平均寿命において、滋賀県は男性の平均寿命が全国第1位、女性は第4位となっています。また、高島市の男女最高年齢の方は滋賀県でも男性第1位、女性第2位となっておられ高島市は「長生きできるまち」と言えます。

このような中、活力ある高齢社会を支える地域の中核組織として、シルバー人材センターが担われる役割は、一層重要なものとなっているところです。会員の皆様におかれましては、「自主・自立・共働・共助」の基本理念のもと、年齢を重ねても生涯現役として、多様な形で地域社会に参画されており、地域の活性化に大きな役割を果たしているところであります。

また、シルバー人材センターには、毎年、地域の皆様から多くのご依頼が寄せられているとお聞きしております。これは、会員の皆様お一人おひとりが長年に渡り培われた知識や経験を活かされ、様々な形で地域



に貢献されてこられたことに対する市民の皆様からの信頼の表れであると確信いたしております。今後におきましても、持てる技術を遺憾なく発揮されますとともに、いつまでもお元気で活躍いただけますようご期待申し上げます。

市といたしましても、年齢を重ねてもそれぞれの方が生きがいを持って過ごしていただけるよう、その環境づくりに取り組んでまいり所存でありますので、変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、高島市シルバー人材センター様の今後益々のご発展と、会員皆様方のご健勝、ご活躍を心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。

剪定講習会

11月18日(月)、新旭ほおじる荘前で剪定講習会を開催しました。会員の講師の指導の下、20名ほどの受講者が松の剪定に挑みました。毎年開催していますので、会員のみなさんの参加をお待ちしております。



ひょうたんの絵付け講習会



11月6日(水)、北部連絡所でひょうたんの絵付け講習会を行いました。バケツにいろいろな絵の具を流し込み、そこにひょうたんを浸ける。ただこの作業だけでひょうたんの表面にさまざまな模様ができる。これだけで二度と同じ模様はできません。世界にたった一つだけの作品が出来上がりました。出来上がった作品は15周年記念フェアの作品展に出展しました。会員のみなさんに好評でした。

シルバー環境美化の日



10月16日(水)、恒例のシルバー環境美化の日が開催されました。高島市シルバー人材センターは6つの班に分かれての活動になりました。参加総数は150名ほどで、天候にも恵まれて気持ち良く美化活動に参画できました。

会員数

令和元年12月31日現在 ()内はプラチナ

地区名	男	女	合計
安曇川	75 (16)	34 (1)	109 (17)
マキノ	82 (7)	14 (1)	96 (8)
今津	98 (12)	20 (2)	118 (14)
朽木	28 (3)	10 (2)	38 (5)
高島	36 (4)	23 (4)	59 (8)
新旭	73 (10)	44 (4)	117 (14)
合計	392 (52)	145 (14)	537 (66)

新入会員のお知らせ

令和元年8月1日～12月31日までの入会者 12名

安曇川	土井 成和、西澤 幸夫
マキノ	平山 武文
今津	前田 千代、溝口 豊、中井 芳彦
高島	和治 庄三、中村みつ恵
新旭	杉山 貞子、坂尾 政門、松宮よう子、多川 正廣

滋賀県子育て支援フェスティバル



11月9日(土)、竜王町のドラゴンハットで滋賀県シルバー人材センター連合会主催の滋賀県子育て支援フェスティバルが行なわれました。当シルバー人材センターは総勢36名で参加しました。わたがし、おりがみやキーホルダー、葉っぱのバッタなどを出展しました。竹馬や竹ぼっくりなど普段あまり目にしない遊具に人気集中しました。次回も子育て支援フェスティバルに参加したいです。

レクリエーション会主催 ハイキング



レクリエーション会主催のハイキングを10月21日(月)、晴天の中、会員21名の参加で開催されました。JR近江高島駅に10時に集合し、大溝城跡から乙女ヶ池、大溝陣屋正面門(総門)を歴史探訪し、町割り水路を見ながらゴールの高島支所で解散しました。



令和元年9月より月2回〜3回の割合で、福祉・家事支援サービスクラス講習会を12月10日まで10回開催しました。講師は高島市の健康推進課の方や地域包括支援課の方、他団体の方にもお願いしました。市民の方や会員の方を合わせて10名の参加がありました。

福祉・生活支援サービスクラス講習会



この字よめるかなあ

ヒント：体の一部です

① 眉間

② 臍

③ 肋骨

④ 拇

⑤ 掌



作品募集

渾身の作品、かわいいペットなど自慢したいものがある会員さんはぜひともシルバー人材センター本部までご連絡ください。

※紙面の都合により必ずしも掲載できるとは限りません。ご了承くださいませ。

編集後記

あけましておめでとうございます。昨年は天皇の即位、大嘗祭等関連する行事で日本中がお祭りムード一色でした。

今年、オリンピックイヤーで列島は賑わう事でしょう。我々も子育て支援や15周年行事で大変多忙な一年でしたが、今年も負けず劣らず元気でがんばりたいものです。
N・K

